10. 取組内容の進捗状況(令和4(2022)年度)　【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

海外教育連携拠点との連携によるシンポジウムの開催

本学は、アジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシア及びタイに開設した海外オフィスを活用して積極的な学生募集活動を展開している。令和2年度以降はコロナ禍で現地への訪問が制限されていたが、渡航制限の緩和を受け、令和4年9月6日にオフィスがあるカセサート大学工学部を会場に、タイオフィス開設5周年を記念したシンポジウム「NAIST and Thai Universities for Research and Education Collaboration Symposium 2022-Towards the Post-Pandemic New Normal」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。

〈 タイオフィス開設5周年記念シンポジウムでタイの協定校関係者らと 〉

シンポジウムには、本学から国際担当理事、タイオフィス長はじめ教職員6名が現地を訪問し、現地からは本学の海外学術交流協定校であるカセサート大学、チュラロンコン大学、マヒドン大学、キングモンクット工科大学トンブリ校、チェンマイ大学の教員及び日本、タイをはじめ各国で活躍するタイ人修了生らが一堂に会し、オンラインを合わせて約100名が参加した。シンポジウムでは日本・タイ双方の関係者よりこれまでのNAISTと各協定校との交流について発表が行われるとともに、今後の教育・研究交流のさらなる活性化について活発に意見が交わされた。

ガバナンス改革関連

UEAの配置によるカリキュラム支援体制の強化

教育推進部門において令和4年4月1日付けでカリキュラム支援担当UEA1名を教育推進部門長として新たに採用し、組織的なカリキュラム編成の企画・支援、履修指導体制の強化を図った。

事務職員の高度化

事務職員のグローバル対応力の強化を目的に海外SD研修を実施し、職員1名を約2週間ハワイ東海インターナショナルカレッジへ派遣した。参加者は自身が設定したテーマである学生支援のあり方について、講義型研修や現地職員へのインタビューを通じて調査を行い、その成果を帰国後の報告会(令和5年2月17日)で学内職員と共有した。

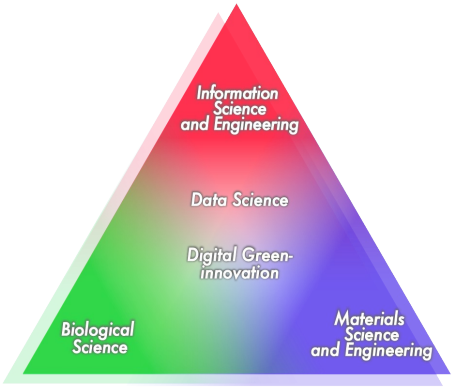
また、大学職員の実務で必要となる英語でのメール作成や窓口対応を研修内容に盛り込んだ学内英語研修を9名の職員が受講した。それらの継続的な取組の結果、令和5年3月現在でTOEIC750点以上の職員の割合は全事務職員の31%の53名に達している。

〈 海外SD研修報告会での成果発表 〉

教育改革関連

教育プログラムの再編

令和3年1月のデジタルグリーンイノベーションセンターの設置を受け、従来先端科学技術研究科で実施していた7つの教育プログラムのうち、「情報生命科学プログラム」、「バイオナノ理工学プログラム」、「知能社会創成科学プログラム」の3つの融合プログラムを再編し、新たに「デジタルグリーンイノベーションプログラム」を設置し、既存の「情報理工学プログラム」「バイオサイエンスプログラム」「物質理工学プログラム」「データサイエンスプログラム」と合わせて5プログラム体制とした。(令和4年4月)



〈 5プログラム体制への移行 〉

海外FD研修の実施

教員の英語による教育・研究・研究室マネジメント能力を高め、本学全体の教育の質を向上させることを目的に海外FD研修を実施し、3名の教員をアメリカ、ドイツ、イタリアの大学へそれぞれ派遣した。参加者は滞在先の大学においてラボミーティングへの参加や現地教員・学生へのインタビュー等を通じ、海外の大学の研究室運営方法について学ぶとともに、帰国後の研修報告会(令和5年3月8日)で学内教員へフィードバックを行った。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

【奈良先端科学技術大学院大学】

留学生と地域住民等との交流の促進

令和3年に包括連携協定を締結した生駒市との連携行事として、令和4年6月4日に大学が立地する生駒市高山地区において田植え体験・抹茶体験を実施し、参加した留学生・地域住民らが交流した。
その他にも令和4年10月30日に生駒市と本学らが共催で「いこま国際Friendshipフェスタ」を生駒駅周辺で開催し、本学からはタンザニア人学生の自国紹介ブースの出展、インドネシア人学生らによる伝統楽器パフォーマンス発表等が行われた。また、生駒市図書館北分館で2度にわたってイベント（R4.11.12、R5.2.12）を開催し、子供達への絵本の読み聞かせや自国の文化紹介・ゲーム等を通じてマレーシア人留学生・ジャマイカ人留学生らが地域住民と交流した。
これらの交流を通じ、地域社会での本学のプレゼンスを向上させるだけでなく、本学留学生の日本文化理解・地域住民の多文化理解の双方を促進することができた。

〈 市民とともに田植え体験を行う留学生達〉

〈いこま国際Friendshipフェスタでのブース出展〉

〈留学生による図書館での絵本読み聞かせ 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組（タイプBのみ）

日本人学生の海外留学促進

ポストコロナの海外留学再開に向け、令和4年4月23日に「海外留学＆グローバルキャリアセミナー ～NAISTから海外挑戦！」をオンラインで開催し、34名の学生が参加した。セミナーではダブルディグリープログラムやトビタテ！留学JAPAN、エラスムスプラスICMプログラム、海外インターンシッププログラムで留学中の学生がリモートで参加し、自身の留学体験談を通じて学生に向けて海外留学への挑戦を呼び掛けた。
それらの取組の成果もあり、令和4年度中に57名の学生が長期留学支援事業制度、JASSO協定派遣、エラスムスプラスICMプログラム等の支援を受けて海外に留学した。

〈海外留学セミナーでの留学体験談発表 〉

外国人留学生向けキャリア支援

留学生向けキャリア支援として、キャリア支援部門に海外経験豊富な2名のキャリア相談員を配置し、留学生限定の個別面談枠を設け年間366件の英語による個別面談を行った。さらに、日本企業に勤務するOBOG留学生との交流会や留学生採用意欲の高い企業による業界研究会、1日企業訪問プログラム等を実施した。その結果、博士前期課程98.8%、博士後期課程95.7%の高い就職率を実現することができ、日本国内で企業就職した／アカデミア正規採用された博士後期課程の留学生の割合は 45.1%となった。また、日本国内で企業就職した／進学した博士前期課程の留学生の割合は 76.4%となった。（就職 23.5% 、進学 52.9% ）

ダブルディグリープログラムの促進

2021年7月に本学初となる博士前期課程のダブルディグリー協定を締結したカセサート大学から2022年10月に学生1名の受入を開始した。既存の博士後期課程ダブルディグリープログラムについては、新たに2名の学生（ポール・サバチエ大学、パリ・サクレー大学）が入学し、2名の学生（パリ・サクレー大学、ポール・サバチエ大学）がプログラムを修了した。

留学生・外国人研究者支援センターによる家族支援・学内交流支援

留学生・外国人研究者支援センター（CISS）において、外国人留学生・教員・研究者及びその家族の生活支援（市役所手続き・医療関連手続き・子育て関連手続き等）を実施した。（相談件数年間364件）
また、学内託児室で外国人留学生・研究者とその家族の交流会を3回（R4.10.27、R4.12.22、R5.3.24）実施し、スタッフが子育て等の相談に応じるだけでなく、家族同士の交流も促進することができた。
また、学内で留学生と日本人学生が参加できるイベントとして、書初め体験（R5.1.6）、留学生パフォーマンス発表会International Stage（R5.2.28）を開催し、キャンパス内の異文化交流を促進した。

〈託児室での家族交流 〉